

令和6年度 市長と語る車座ミーティング（意見交換概要）

【開催日時】 令和6年7月12日（金）（午前9時～午前10時）

【開催場所】 東部人権啓発センター3階大会議室

【参加団体】 東御市男女共同参画推進会議

【参加者数】 9名（市長、市職員除く。）

【懇談テーマ】 「市における今後の男女共同参画推進について」



※議事については、主な内容を抜粋して掲載しております。

個人のプライバシーに関する部分などについては、一部内容を割愛しております。また、意見交換の内容は開催日時点のものであり、現在の状況と異なる場合がありますことを、あらかじめご了承ください。

【概要】

（司会）

本会議のあり方を検討しているところである。

市における男女共同参画について市長の考えを聞き、今後の参考としたいと考えている。

市長の考えを聞く前に、各委員から意見などを述べたい。

（委員）

活動をし始めた頃と比べ、現在は男女共同参画が浸透してきたと考える。男女共同参画推進については、今の時代に合ったものを作っていけたらよいと考える。

（委員）

当時、介護や子育てをするため、女性の自分が退職した。現在は社会全体が変わってきており、自身の子ども世代は男女共同参画を学んでいて自立していると思うが、まだまだ足りない部分も

あると感じている。

(委員)

市は本会議をどの位置で捉えているかお聞きしたい。

(委員)

本会議に限らず後継者が育っていない現状があり、高齢化に伴い委員も減ってきていることが悩みの種である。

(委員)

年齢や委員数の問題もあるが、本会議の必要性について考えている。行政から若年層との接点や活動について情報提供があれば、その手伝いをしていきたいと考えている。

(委員)

平成3年から男女共同参画の窓口となり取組みを進めてきた。年齢を重ね、自主的に活動することが難しくなっている中、これからは仲間や行政、男女共同参画推進委員会の働きかけに応じて動いていきたい。

(委員)

発足当初から活動をしてきたが、具体的な取組として男女共同参画に関する地区懇談会を開催し地域の実情を知ることができてよかったと感じている。

(委員)

長年活動を続けられたことに感謝している。今後、若い世代と関わりをもって活動していくことは困難であると感じている。市として今後の取組みをどうしていくのか聞きたい。

(市長)

本会議の活動に参加していた頃、役場の職員同士が結婚した際にどちらかが退職することはおかしい、声を上げるべきだという意見が否決されたことがショックであった。

暗黙の了解のもとでどちらかが辞めることに対して、声を上げないと本会議の存続理由にかかわると思った。

また、戸籍制度に目を移しても、世帯主を選ぶ際に男性になる例が圧倒的に多い現状がある。男性を代表としたシステムが浸透しているなかで、AIを活用することで世帯ではなく、個に対するプロセスができたと考えている。世帯単位での対応の弊害として、10万円給付を行った際にDV被害者の女性から、世帯主ではなく自身と子どもに渡すよう要望があった。こういった弊害もあることから、今後世帯主制度はだんだんと無くなってくるのではないかと考えている。

子育てに関する取組についても、本市の出生率をどう確保しワークライフバランスをとっていか、またどういった支援があったら出産がかなうか等を考えていかななくてはいけない。

市で委嘱している男女共同参画推進委員会については、多世代の意見を聞くことができるよう委員の構成を考えている。当時から言われているのが、どの計画についても計画段階から女性の意見を取り入れるように言われており、とても重要なことであると認識している。

女性の意見を取り入れるということで一例を挙げれば、東日本大震災が発生し、その避難所について検討するため運営委員を集めた際、集まった方が男性のみであり、女性目線の意見がないため生活できる状態ではなかったと聞いている。最近の被災時の対応として、段ボールの目隠し等が行われるようになったことは大きな一歩であるとする。今後は新たな課題が出てくるため、

女性の意見を含めた対応が必要である。

今後の男女共同参画については、賛同する意見より否定的な意見の方がこれからの時代をつくっていくと考えており、時代が大きく変わってきている中、個人的には世代交代が必要であると考えている。

(司会)

本会議が行ってきたことを東御市男女共同参画推進委員会で推進していくのか。

市では各地区に出て一般市民の意見を聴く場がないと感じている。今後の施策を聞きたい。

(市長)

意見を聴く窓口は多くあることが必要であり、意見交換を行う際にも発展的な内容にしていくことが重要であると考えている。

(司会)

市長の考えを受け止めながら本会議の今後を考えていきたいと思う。